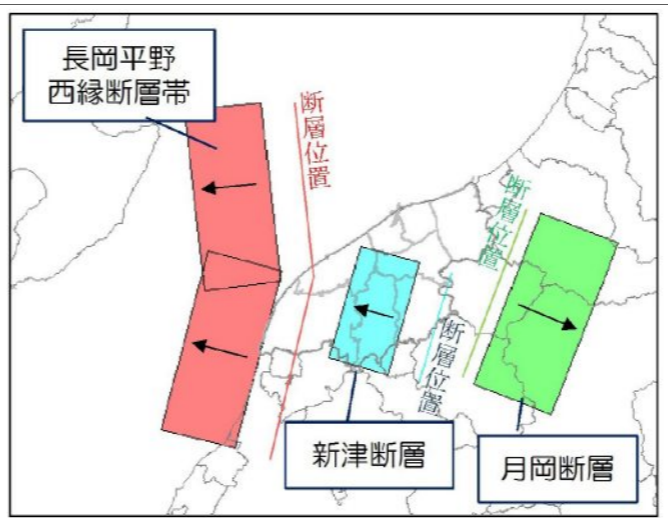


	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年  断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。  月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上  断層の活動性 0.4m/千年程度

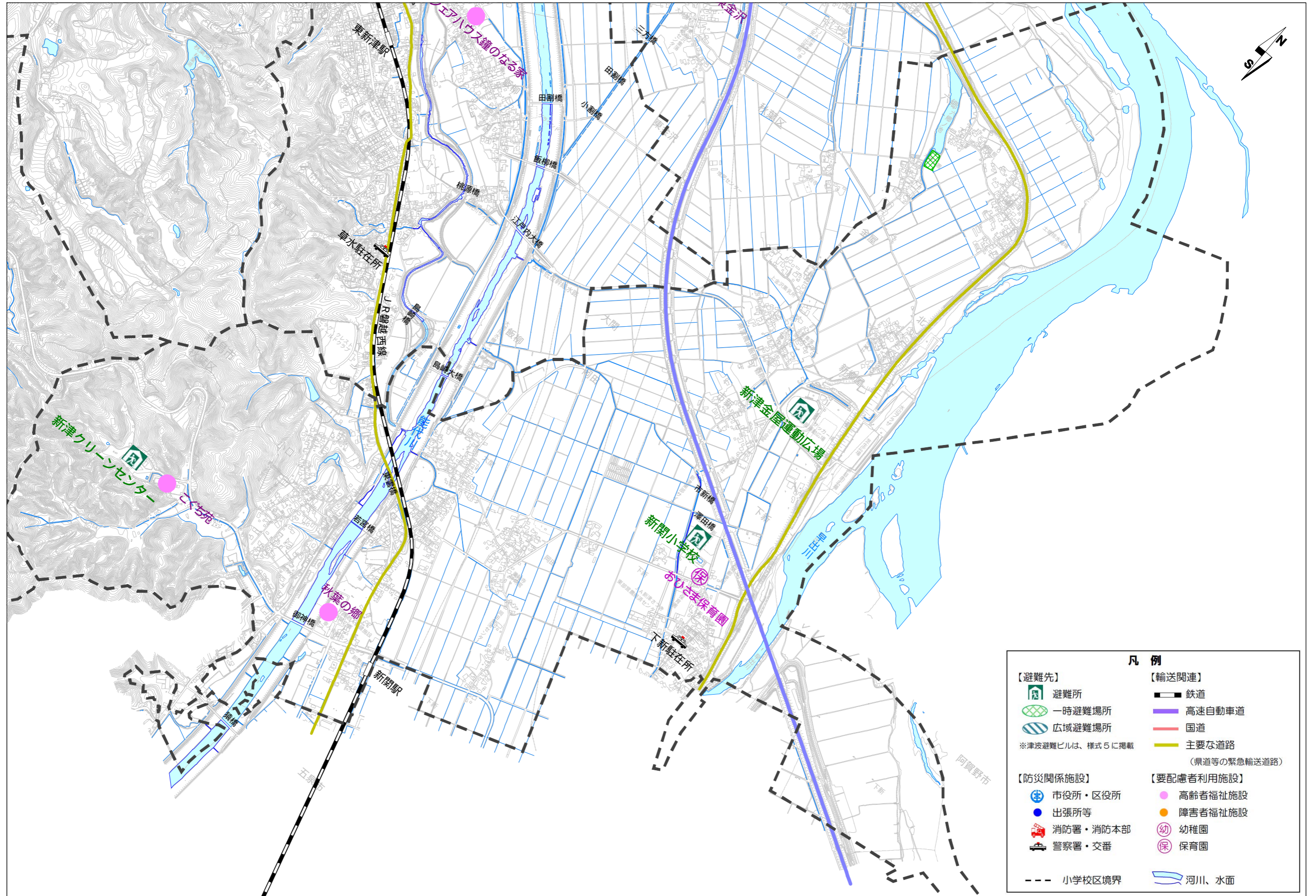
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。  
【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】  
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>  
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



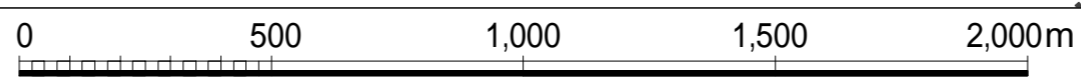
← は、断層の傾きを示しています。



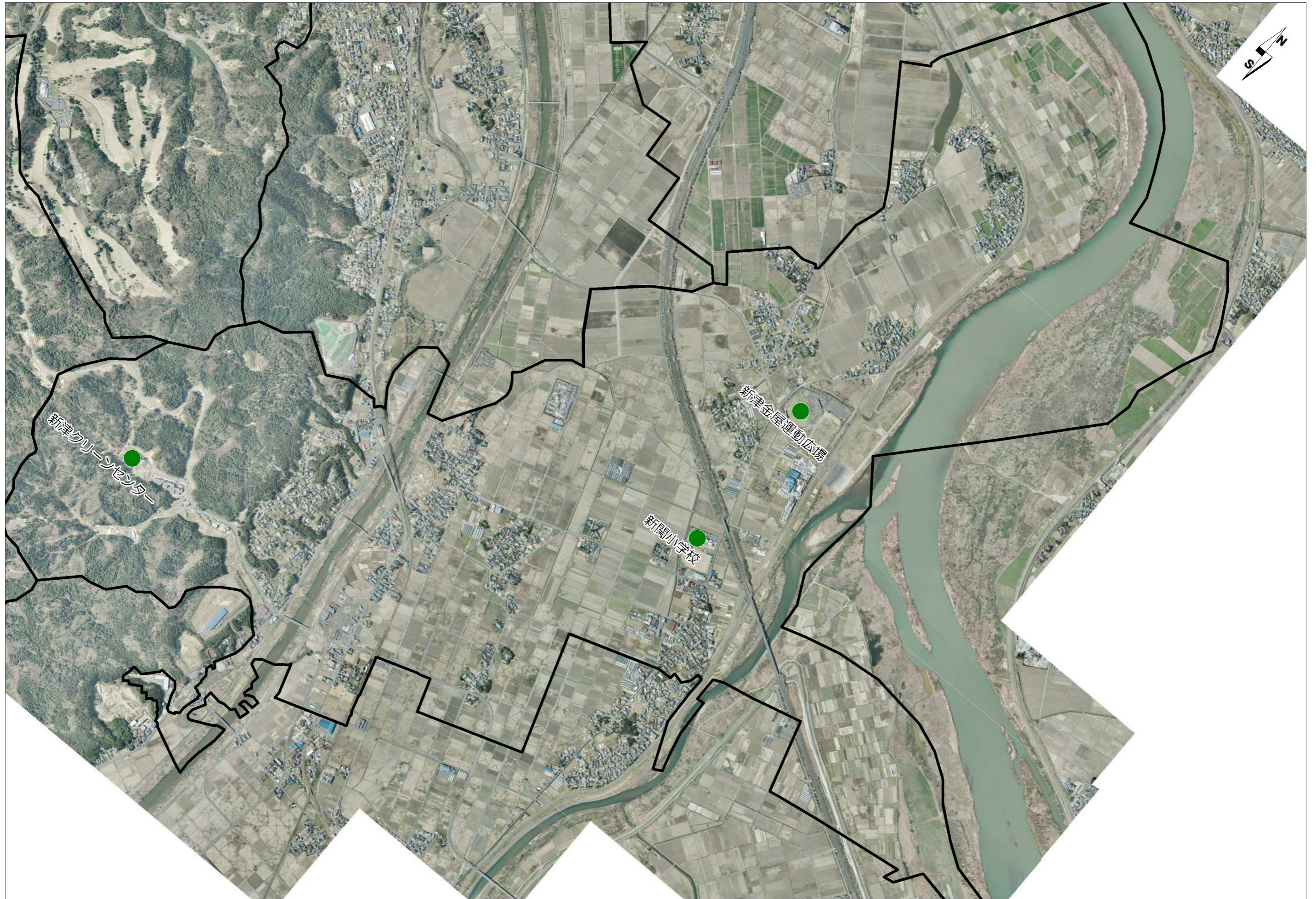


凡例	
<b>【避難先】</b> 避難所 一時避難場所 広域避難場所 <small>※津波避難ビルは、様式5に掲載</small>	<b>【輸送関連】</b> 鉄道 高速自動車道 国道 主要な道路 <small>(県道等の緊急輸送道路)</small>
<b>【防災関係施設】</b> 市役所・区役所 出張所等 消防署・消防本部 警察署・交番 小学校区境界	<b>【要配慮者利用施設】</b> 高齢者福祉施設 障害者福祉施設 幼稚園 保育園 河川、水面

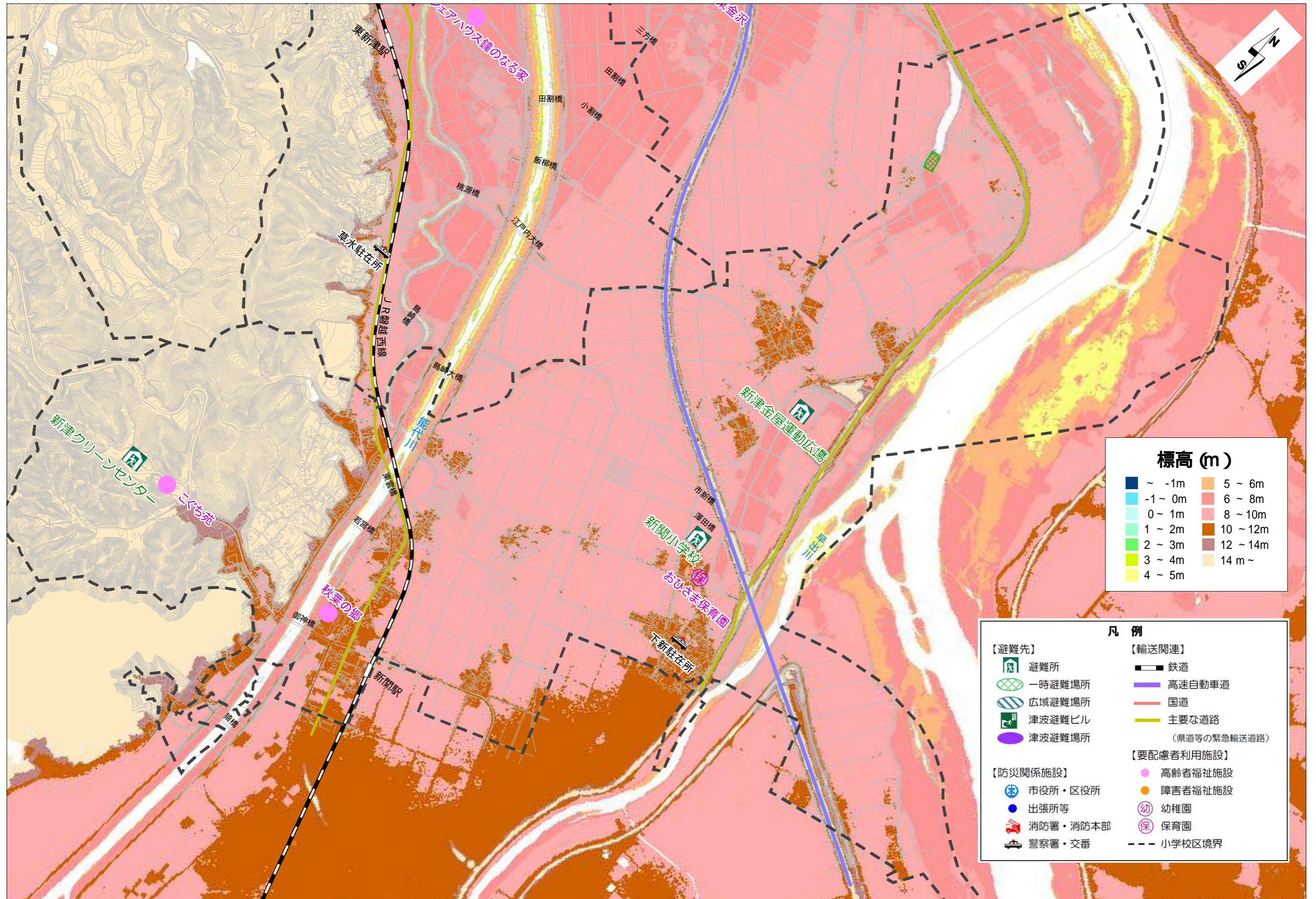
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)



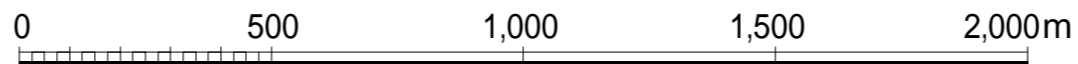




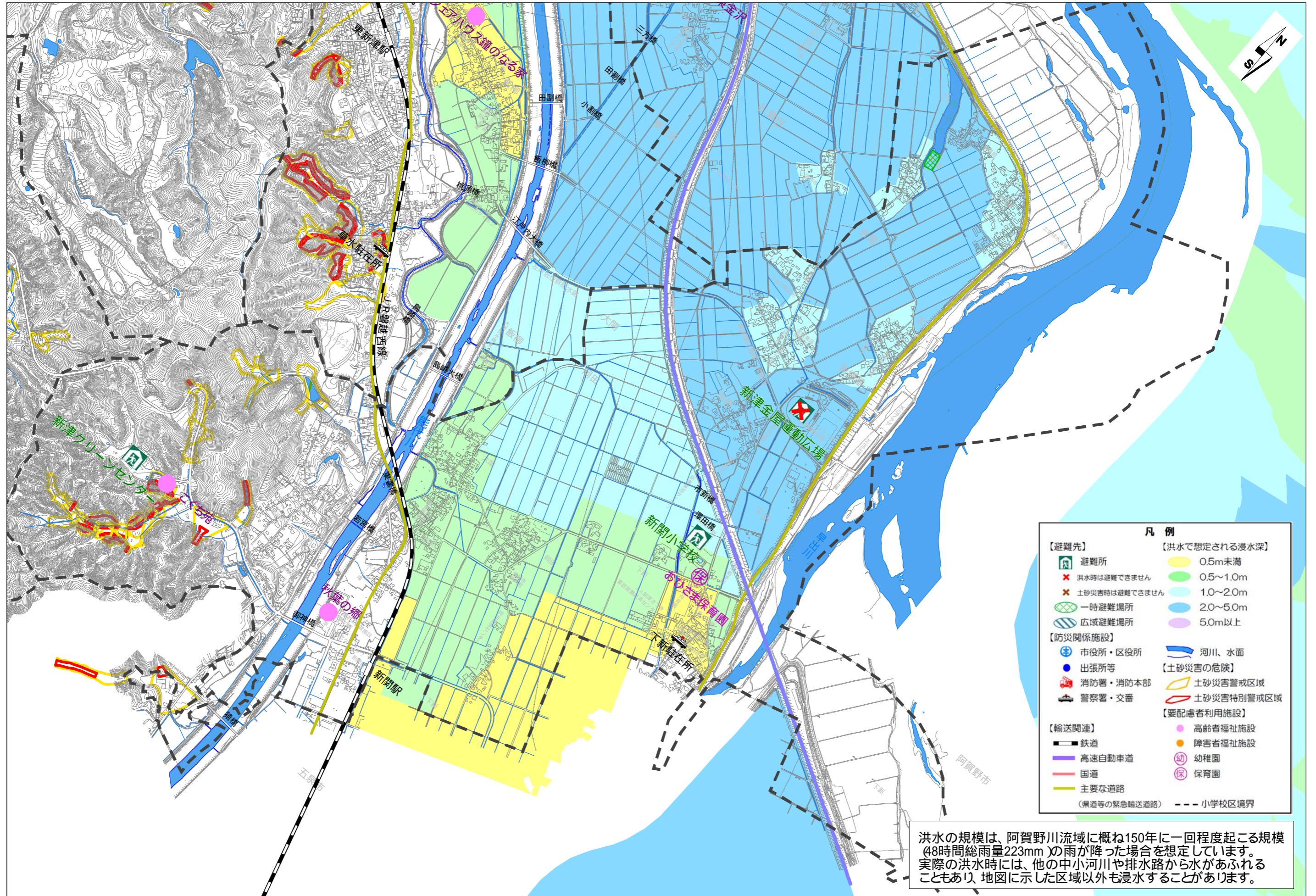




[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



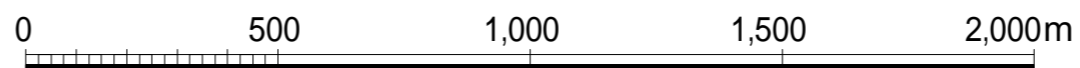




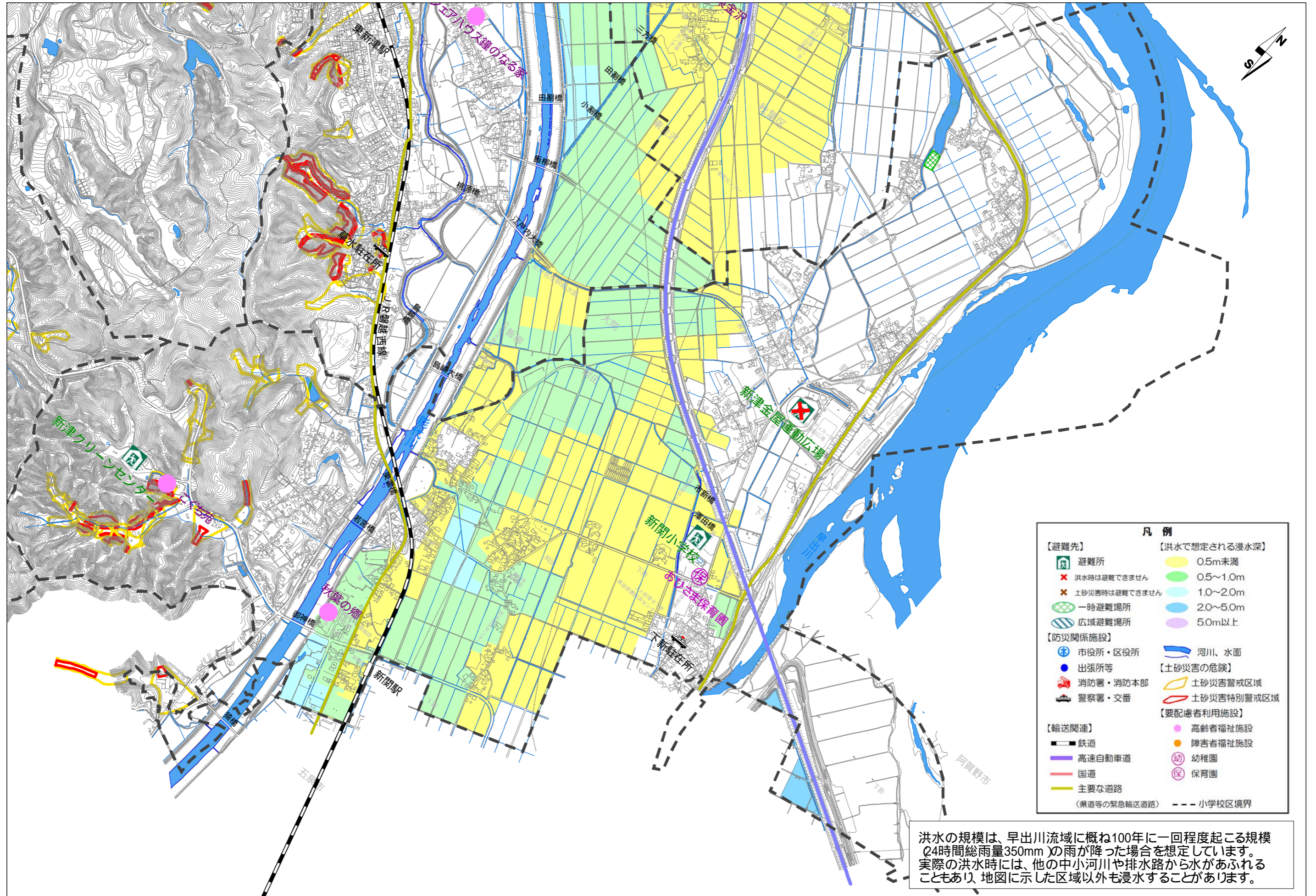
凡例	
【避難先】	【洪水で想定される浸水深】
避難所	0.5m未満
洪水時は避難できません	0.5~1.0m
土砂災害時は避難できません	1.0~2.0m
一時避難場所	2.0~5.0m
広域避難場所	5.0m以上
【防災関係施設】	【土砂災害の危険】
市役所・区役所	土砂災害警戒区域
出張所等	土砂災害特別警戒区域
消防署・消防本部	【要配慮者利用施設】
警察署・交番	高齢者福祉施設
【輸送関連】	障害者福祉施設
鉄道	幼稚園
高速自動車道	保育園
国道	
主要な道路	
(県道等の緊急輸送道路)	小学校区境界

洪水の規模は、阿賀野川流域に概ね150年に一回程度起こる規模（48時間総雨量223mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)  
阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)



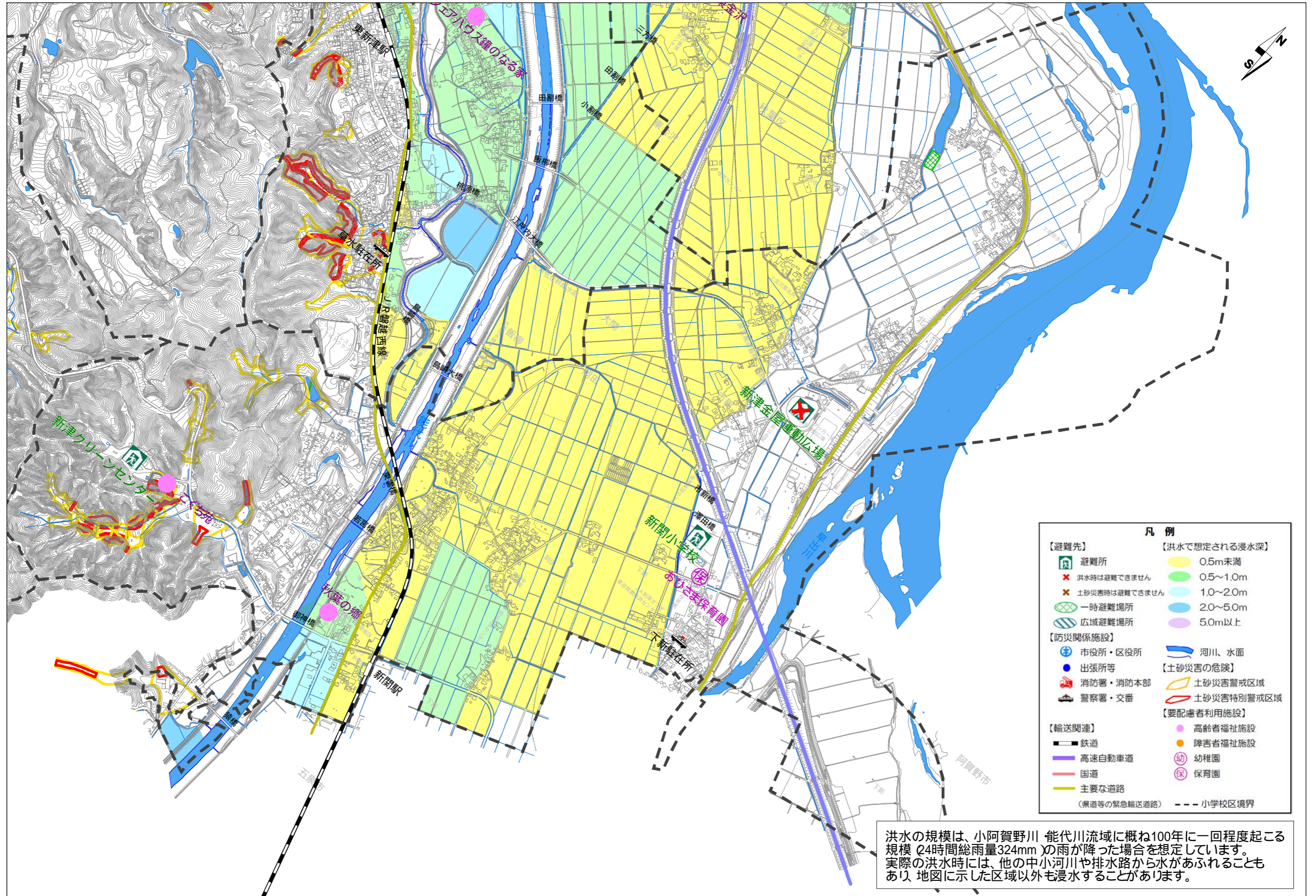




[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年)  
早出川浸水想定区域 (新潟県,平成17年6月20日)

0 500 1,000 1,500 2,000m





[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)  
小阿賀野川 能代川浸水想定区域 (新潟県, 平成16年6月23日)

洪水の規模は、小阿賀野川・能代川流域に概ね100年に一回程度起こる規模(24時間総雨量324mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。